



2017年10月1日

日本聖書協会 総主事

渡部 信

報道各社 各位

プレスリリース

## 新翻訳聖書の書名が決定 — 『聖書 聖書協会共同訳』

一般財団法人 日本聖書協会（東京都中央区銀座 4-5-1 理事長：大宮溥〔おおみや ひろし〕）は、2017年9月8日（金）に開催した2017年度第4回理事会において、新翻訳聖書の書名を『聖書 聖書協会共同訳』（英語名 Japan Bible Society Interconfessional Version）と決定した。

聖書協会は、活動を開始した1875（明治8）年以来、明治元訳（1887年）、大正改訳（1917年）、口語訳（1955年）、新共同訳（1987年）の4種の聖書を翻訳・出版してきたが、今回も新共同訳に引き続き、カトリック教会とプロテスタント教会との共同訳となる。

この度の新翻訳聖書発行に当たり日本聖書協会は、2005年11月に「翻訳部」を立ち上げ、オランダ聖書協会が刊行した *Nieuwe Bijbelvertaling 2004*（カトリック教会とプロテスタント教会との共同訳）を参考に、新しい翻訳理論（「スコ-pos理論」）を採用する方針を定めた。18の協力教派・団体からなる諮問会議の答申を承認し、2009年12月には日本聖書協会理事会にて新翻訳事業を開始することが決議された。

この新翻訳事業の目的は、口語訳や新共同訳など過去の翻訳聖書の変遷を評価しつつ、21世紀前半の日本における教会の標準訳となるべく、新しい聖書が「スコ-pos（目的）が教会の礼拝で用いられること」「原典に忠実であること」「翻訳文が格調高い日本語であること」「最新の学問的知見を踏まえること」にある（「翻訳方針前文」はホームページ上より入手可能）。

現在、本文が完了したものからパイロット版として頒布し、多くの読者から翻訳文に関する意見を随時収集している。それらを踏まえ最後の本文調整を行い、2018年末には『聖書 聖書協会共同訳』を発行する予定である。

問い合わせは日本聖書協会 総主事 渡部信まで。